

[001] 生活体験学習研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/8990>

出版情報：生活体験学習研究. 1, 2001-01-01. 日本生活体験学習学会
バージョン：
権利関係：

日本生活体験学習学会 事務局報告

I 日本生活体験学習学会理事会(準備会理事会含む)

会議日程

打合会	1999年9月19日	庄内町生活体験学校
第1回	11月6日	福岡県立社会教育総合センター
第2回	12月19日	九州大学教育学部社会教育学資料室
第3回	2000年1月30日	福岡県立社会教育総合センター
第4回	2月27日	九州大学教育学部社会教育学資料室
第5回	3月17日	福岡県立社会教育総合センター
(以上、準備会理事会)		
第6回	4月15日	庄内町生活体験学校
第7回	5月28日	九州大学教育学部社会教育学資料室
第8回	7月2日	庄内町生活体験学校
第9回	8月6日	九州大学教育学部社会教育学資料室
第10回	9月17日	庄内町生活体験学校
第11回	11月3日	九州大学教育学部社会教育学資料室

II 会員実数 2000年11月23日現在

個人会員 131名
法人会員 3名

III これまでの活動

- * 第1回生活体験学習実践交流会 開催
1999年9月18日、19日
於 福岡県庄内町生活体験学校
- * 第1回研究大会 開催
2000年3月18日、19日
於 福岡県立社会教育総合センター
- * 第2回生活体験学習実践交流会 開催
2000年9月16日、17日
於 福岡県庄内町生活体験学校
- * 学会通信の発行

- 第1号 1999年11月22日発行
- 第2号 2000年1月5日発行
- 第3号 2000年5月1日発行
- 第4号 2000年7月28日発行
- 第5号 2000年11月16日発行

IV 理事会での協議事項及び決定事項についての報告

なお、以下の原稿は「日本生活体験学習学会学会通信」第1～5号に掲載しております「事務局からのお知らせ」によるものです。

(1) 学会設立についての経過報告①

(学会通信第1号掲載)

◇日本生活体験学習学会準備会は、1999年9月に実践交流会を約350名の参加者によって成功裡に発足させることができ、3月18、19日の研究大会への準備をすすめています。事務局からの最初のお願いは、実践交流会に参加された方々の中から一人でも多くの学会会員になっていただくことです。しかも、生活体験学習のもつ意義をとらえ、さらに一人でも多くの入会者をさそって頂きたいと願っています。交流会参加者の方々はすでにご承知のように、この学会は、大学の研究者や院生主体の学会ではなく、まさに、生活体験学習に取り組み、またこれから取り組もうと苦勞されている学校の教師、市町村の職員、民間団体の会員など広く、多くの実践・活動を担っておられる方を中心に活動を行おうとしているものです。学会そのものは未だ正式発足ではありません。実践交流会を準備しながら、学会設立の趣意書と設立呼びかけ人の同意、学会規約(案)、入会申込書などの書類の準備も同時にすすめてきました。そして、さる11月6日に、学会設立準備会の第一回を開催し、正式に日本生活体験学習学会準備会理事会(仮)を発足させ学会設立と3月の研究大会へ向けて始動しはじめました。切に、ご賛同、ご入会の程を重ねてお願いします。

◇学会設立準備会理事会(仮)は、実践交流会の準備会がそのまま引き継ぐことになりましたが、正式の理事会並びに役員体制が3月の研究大会における第一回総会に於いて決められるまで次のような役員および組織構成としました。<学会準備会会長>横山正幸(福岡教育大)<事務局長>南里悦史(九州大)<同次長>末

崎雅美（九州大大学院）＜研究担当＞猪山勝利（長崎大）、古賀倫嗣（熊本大）＜紀要（年報）担当＞横山正幸、森山沾一（福岡県立大）＜研究大会担当＞正平辰男（福岡県立社会教育総合センター）、南里悦史＜通信担当＞森山沾一＜実践交流会担当＞九野坂明彦（庄内町生活体験学校）とし、さらに、3月までに、数名の理事の参加を頂き、その他に幹事として九大・福岡県大の院生の数名をお願いすることになりました。事務局は、研究大会事務局を九州大学大学院人間環境学研究所発達・社会システム専攻教育学コース生涯学習論研究室、実践交流会事務局を庄内町生活体験学校におくことになりました。（連絡等については表記などを参照下さい）

◇なお、学会の委員会の組織としては、①紀要編集委員会（3月の研究大会後に出版の予定の紀要または年報に関する事）②選挙管理委員会（3月の研究大会までは学会準備会として、3月からは準備会を新しく数名を加えた理事会として承認していただき、1年間の期間中に選挙管理委員会を発足させて2年目より会長、副会長、理事の選挙によって、新体制を出発させる）③研究大会開催実行委員会（第2回目からの研究大会のための準備を行う）、その他、国際交流委員会など必要に応じて設置することになりました。

ただ、委員会の組織化と運営について、研究大会中心にならないように、「実践交流会・名誉会長」を朝原良行（庄内町福祉の里づくり推進協議会会長）にお願いし、実践交流会は生活体験学校の日本の発祥地である庄内町生活体験学校を中心に毎年行うことを決定しました。

◇2000年3月の研究大会への準備予定では、12月に第2回準備会理事会（仮）を開き、3月の自由研究発表のエントリー募集や大会でのシンポジウム、課題研究などの検討を行います。とくに自由研究発表は、「理論」「歴史・比較」「実践」の分野を用意し、会員になれば誰でも発表することができます。ちなみに、大会の時期と場所は平成12年3月18(土)～19(日)、福岡県立社会教育総合センターを予定し、準備をすすめています。『学会通信第2号』に詳しく掲載しますが、自由研究発表のエントリー締切は、1月24日（予定）ですので、発表準備等をよろしく願います。

少しずつ学会の組織・態勢を固めていかなければな

りません。全国学会としての発足を九州から発信しようと強い決意で準備会・事務局一同決意しておりますので、よろしくご協力、ご支援の程を心から願います。（文中敬称略）（文責 南里悦史・事務局長）

(2) 学会設立についての経過報告②：第2～5回学会設立準備会理事会（仮）の報告（通信第2号掲載）

1. 報告

学会事務局より学会通信第1号の発刊と発送、および会員の入会状況や会費納入状況について報告があった。

2. 協議事項について

① 組織・会員の拡大について

現段階（1月5日）での入会者は33人となっている。この状況では、次年度予算もたてられないため、3月の総会に向け200人を目標に会員の拡大を図る努力をすることとした。また、以前から論議のあった法人会員についても認める（年会費¥10,000）こととし、仮規約を一部訂正することが確認された。

理事について、将来、学校部門、保育部門、団体部門など部門別に理事をおいていくことも検討された。それぞれ現理事の推薦を受け、5名ほど拡充していくことを確認した。

② 研究活動の方針について

学会の研究対象領域については理事会の事前に行われた研究担当の理論委員会において、今後の方向性を含め話し合われた。その報告を受け、第1回研究大会については、以下のように決定した。

- ・課題研究については、第1回大会については「今なぜ生活体験か」というテーマで、シンポジウムを行う。

- ・自由研究発表の分野については、①理論、②歴史・比較、③実践Ⅰ、④実践Ⅱという設定で行う。

③ 第1回研究大会について

開催要項の配布、会場準備、参加費、タイムスケジュール等実務的な部分の確認がなされた。

学会発表レジュメ集について、印刷様式と掲載広告について検討がなされた。掲載広告料については、A4サイズ1頁あたり¥30,000とし、出版社に限らず団体等の広告も受け入れることとした。

④ 年報の発行について

年報については、編集規定の案が出された。これを受け、本の体裁、出版社との交渉など詳細について、後日紀要編集担当委員（横山、森山）によって検討されることが確認された。

⑤ 学会通信第2号について

通信の内容、執筆分担について、それぞれ検討・確認した。

⑥ 各委員会・担当体制について

準備会理事が今後増えることを念頭におき、各委員会・担当を増員していくこととした。幹事についても、九大・県立大で増員することを確認した。

また、今後インターネットやマスメディアの情報収集・発信に関しては、HPサイトをもつ生活体験学校に一任することとした。

(3) 学会発足および第1回総会についての報告

(学会通信第3号掲載)

本年3月18日(土)に日本生活体験学習学会第1回総会が開かれました。総会の出席者は72名と、会則第五章第14条に定める総会の定足数を満たしておりましたので、決定事項は総会の決議事項として、ここに会員の皆様にお知らせします。

総会では、出席者から猪山勝利会員（長崎大学）と窪田貴子会員（甘木市子どもの文化ネットワーク）が議長として選出され、議長の議事進行に従い進められました。事務局長の南里悦史会員からこれまでの経過報告と会務報告がなされ、学会会則案と予算案が提出され、拍手によって承認され、これまで仮登録としていました全会員の皆様に正式に会員として登録することになりました。

また、これまで会の準備を進めてきた準備会の理事が、正式に日本生活体験学習学会の理事として承認されました。ただし、これらの理事は選挙による選出ではないため、1年間の暫定理事として就任することとなりました。理事等の役員選挙管理規定については、担当の古賀倫嗣会員から役員選挙管理規定案が提出され、拍手によって承認され、これに基づき本年度の選挙を行うことと決定しました。

学会研究紀要および年報の発行について、担当の森山沾一会員より学会年報・紀要編集規定案が提出され、

拍手で承認され、これに基づき本年度紀要を発行することが決定しました。

また今後の研究活動については、学会の目的である生活体験学習に関する実践の交流と研究の推進のために、さらに広く会員を募っていくことや、研究大会や実践交流会をさらに充実させていくことなどを確認し、総会は終了しました。

(4) 第6回理事会理事会での決定事項

(学会通信第3号掲載)

去る4月15日(土)に、福岡県庄内町生活体験学校にて第6回理事会が行われました。その理事会において、以下のことが決定されましたのでご報告いたします。

① 第1回日本生活体験学習学会研究大会について

研究大会には300名を越える参加をいただくことができ、盛会とすることができました。大会では新規会員として26名の方が登録され、現時点で会員は123名（うち2名は法人会員）となりました。

また会計から、大会関係会計決算が報告されました。参加費や広告費等の収入が¥270,500あり、資料印刷代や備品、理事会開催費等の支出が¥66,189と報告されました。なお、懇親会でも若干の黒字がでており、学会予算に「その他収入」として繰り入れることが決定されました。

② 役職担当について

理事会拡大に伴い、役職担当の委員についても拡大されることとなりました。

以下にご紹介いたします。

《研究・組織担当委員》猪山勝利（長崎大学）、小方信二（赤間保育園）、古賀倫嗣（熊本大学）、山岸治男（大分大学）

《紀要編集委員会》森山沾一（委員長、福岡県立大学）、小松啓子（副委員長、福岡県立大学）、上野景三（佐賀大学）、正平辰男（生活体験学校）、横山正幸（福岡教育大学）

《選挙管理委員会》上野景三、古賀倫嗣

《通信担当委員》相戸晴子（筑豊子育てネットワーク）、窪田貴子（甘木市子どもの文化ネットワーク）

《実践交流会・研究大会担当》九野坂明彦（庄内町教育委員会）、正平辰男、森山沾一

③ 紀要編集について

日本生活体験学習学会の研究紀要第1号を9月中旬に発行する予定です。つきましては、紀要への投稿を希望される方を募集します。

なお、投稿論文については、投稿募集時と原稿到着時に紀要編集委員会にて論文審査を行います。紀要編集規定に逸脱する原稿や論文の内容が本学会の研究紀要としてそぐわないものについては掲載いたしませんのであらかじめ御了承下さい。

④ 第2回実践交流会について

第2回実践交流会について、日時と場所が決定しましたので報告いたします。

日 時 平成12年9月16日(土)、17日(日)

場 所 福岡県庄内町生活体験学校、庄内町住民センター

なお、期間中に農作業や豆腐づくりなどのワークショップを行う予定です。

(5) 第7、8回理事会での決定事項

(学会通信第4号掲載)

第7回理事会が5月28日(九州大学)に、第8回理事会が7月2日(庄内町生活体験学校)に開かれました。ここに理事会での主な報告事項並びに決定事項をお知らせします。

① 学会紀要第1号の発行について(紀要編集委員会より)

学会紀要と年報の発行について、それぞれ隔年で発行することが決定されました。(本年度については既に研究紀要の発行が決定しています。)年報の研究テーマ等については、研究担当委員が検討を行います。

学会研究紀要『生活体験学習研究』第1号(9月15日発行予定)の編集作業の進捗状況について報告がありました。投稿論文の到着状況の報告や、編集委員会において作成された執筆要項およびレフリー要項の承認、第1号の構成の承認、依頼論文執筆者の確認などが理事会で行われました。

② 本年度の理事選挙について

理事選挙について、先日の総会で役員選挙規定が承認されましたが、詳細は後日ひらかれる選挙管理委員会で決定されます。役員選挙は11月をめどに行う予定です。なお、学会の会員名簿の作成について、所属住

所連絡先等を記載した名簿を、各会員に配布することを決定しました。

③ 学会通信第4号について

学会通信第4号には、実践交流会の内容を記載するため、それに向けた執筆者の選定が行われました。なお、本号から会員による「研究ノート」を連載することとしました。

④ 実践交流会について

プログラムの具体的内容やシンポジストについて協議・決定が行われました。

⑤ 次期研究大会(2001年3月)について

大会開催会場について、本年度同様に福岡県立社会教育総合センターに打診することを決定しました。3月中下旬に行う予定です。

(6) 第9、10回理事会での決定事項

(学会通信第5号掲載)

第9回理事会が8月6日(九州大学)、第10回理事会が9月17日(生活体験学校)に開かれました。ここに理事会での主な報告事項並びに決定事項をお知らせします。

学会紀要第1号発行予定の延期(紀要編集委員会より)

学会紀要第1号について、当初9月発行の予定でしたが、諸般の事情により12月発行予定となることが報告され、理事会でこれが了承されました。

① 本年度理事選挙について(選挙管理委員会より)

平成13~14年度の役員選挙を13年1月に行います。選挙に際し、住所・連絡先・所属等を付した会員名簿を会員に送付します。

② 今後の研究活動について

文部省の科研費の申請を行うことが提案されましたが、研究委員会で再検討し、基盤研究(B)で申請することが承諾されました。

生活体験に関わる様々な概念検討や学会における研究システムを構築するために、研究担当委員が中心となり、今後継続的に研究会を行っていくこととしました。

③ 第2回研究大会について

平成13年度の研究大会を平成13年3月17~18日、福岡県立社会教育総合センターで行うことが決定されま